

「Love All, Serve All」(すべてを愛し、すべてに奉仕しなさい)に関するババの御言葉

アヴァターたち——無私の奉仕の素晴らしい模範

奉仕は最高の修行

アヴァター(肉体を持って地上に降臨された神)たちは、セヴァ(奉仕)に従事するために降臨します。それがアヴァターが存在する理由です。ですから、あなたが人類に奉仕を提供するとき、当然のことながらアヴァターは喜び、あなたは恩寵を勝ち得ることができます。

—1977年3月6日、*Sathya Sai Speaks Vol.13 C29* より

セヴァは、最高のサーダナ(霊的修行)です。なぜなら、神御自身が人間の姿をとり、人類に奉仕し、顧みられなくなった理想へ導くために降臨しているのですから。人が人に奉仕をするとき、どれだけ神が喜ぶか想像してごらんください！

—1967年3月8日、*Sathya Sai Speaks Vol.7 C5* より

遍在の神は、クリシュナの姿をとり、戦車の御者としてアルジュナに奉仕しました。それだけではなく、疲れた馬たちを川へ連れて行き、洗ってやりました。それは、クリシュナが馬を洗う仕事も快く受け入れていたということです。

—*Summer Showers in Brindavan 1973 Service to Man is Service to God* の章より

神は、帰依者が続くための手本

ラージャスーヤ ヤーガ(供犠祭)の準備が進められていたとき、クリシュナがダルマラージャのところに来て、自分に何か仕事を割り当ててくれるよう頼みました。ダルマラージャは、何の仕事がいいかおっしゃってくださいたら、それを割り当てて差し上げましょう、と言いました。クリシュナは、汚れた葉っぱを片づけないままにしておくと、人々の心の中に嫌な気持ちが生じるので、人々が食事をした後で(皿代わりに使った)葉っぱを片づける仕事がいいです、と言いました。クリシュナは、人々に喜びを与え、良い気持ちにすることができるように、この仕事を選びました。帰依者が従うことができるように、神は手本を示します。

—*Summer Showers in Brindavan 1973 Service to Man is Service to God* の章より

愛は自分自身を奉仕として表現する

人生は、折れ曲がり、壊れ、病に冒され、嘆き、落胆しながら過ぎて行きます。これらの人生を貴いものとするために、そして人間の品性を価値あるものとするために、私は来ました。私が表す熱意のすべては、セヴァをする正しい姿勢をあなた方に教えるためのものです。愛は自分自身をセヴァとして表現します。セヴァを通じて愛は成長します。愛はセヴァの胎内から生まれます。そして神は愛です。アヴァターの慈愛が、彼のあらゆる行動を促します。

鳥や動物や木は、大自然から逸脱することなく、今もなお自然を守り続けています。人だけが、自然を發展させようとする粗野な試みによって、自然の姿を損なってしまいました。だからこそアヴァター(神の化身)が人間として人々の中に現れ、友人や支持者、親戚、導き手、教師、癒し手、参加者として振る舞わなければならないのです。アヴァターは、ダルマ(正義)を復興させるために来ました。ですから、人がダルマに従うとき、神は喜び、満足します。

—1970年10月4日、*Sathya Sai Speaks Vol.10 C23* より

サイの行動はすべて無私で、神聖で、有益です。サイは決して害をもたらしません。サイは、真理の道、道徳の道、神を悟る神性な道を築いています。ですから、サイの仕事は輝かしく進むでしょう。真理への完全な立脚、絶対的な無私、普遍性、自然にわき上がりあふれ出す愛は、サイのみに見られるものであり、他のどこでも見ることはできません。サイにはほんのわずかな私利私欲もありません。

—1976年8月1日、*Sathya Sai Speaks Vol.13 C21* より

常に他の人に対して良いことを願いなさい

皆さんは善い想いの力を理解しなければなりません。想いは人から人へと移って行きます。もしあなたが他者に対して悪い想いを持ったとすれば、その想いは相手を傷つけるだけでなく、十倍以上の害をあなたに及ぼします。中には他人に害を与え、その人たちが破滅してしまうことを望んでいる人がいます。このような考えは私たちを十倍傷つけます。そのような人たちを絶対に近づけてはなりません。常に人に対して良いことを願いなさい。すべての人を愛しなさい。「私の生き方は私のメッセージです」と私が言うのはそのためです。私は常に、多くの犠牲を払い、放棄し、他者に与えています。私は利己心をまったく持ち合わせていません。

—*Advaita Through Seva* Vo.2 1987年11月19日～24日の御講話より

私の生き方は私のメッセージです

愛の原理にはエゴや汚れはありません。それは利己的な執着から完全に解放されています。サイがすることは何でも、サイが考えることは何でも、サイが言うことは何でも、サイが観ることは何でも、あなたの方のためであり、サイのためではありません。私のただ一つの望みは、あなた方の喜び、アーナンダ(至福)です。あなたのアーナンダは私のアーナンダです。あなたのアーナンダのほかに私のアーナンダはありません。

—1982年11月23日、*Sathya Sai Speaks Vol.15 C55* より

あなた方はリーダーであるスワミ(主/サイババ)に従うべきです。朝から晩まで、スワミはどんなに小さな仕事であっても自分自身で行います。スワミの仕事のすべては、世界のためです。このためスワミはしばしば「私の生き方は私のメッセージです」と言うのです。神と神の声は同じで一つです。ですから、スワミが定めたことや、スワミが行うことをすれば、神を喜ばせる仕事になります。自らを顧みないで仕事や、名声や権力への欲望を抑えることは、神を最も喜ばせます。

—*Summer Showers in Brindavan 1979 Nishkama Karma* の章より

スワミの神性な使命に参加するという比類なき機会

私はあなた方を見捨てません

すべての人に眠っている神性を目覚めさせるため、完全なる神のエネルギーが人類のもとにサティヤ サイとしてやって来ました。私はあなた方を見捨てません。私はあなた方を助け、寄り添い、支えるために来たのです。私があなた方を見捨てることは決してありません。私は、私の子どもたちに対する義務を決して怠りません。けれども、私の仕事を助けてくれる子どもに対しては、とても感謝することでしょう。

—*My Baba and I p170* より

サティヤ サイとしての役割を果たす

私(神)の創造物である、無私の奉仕と崇高な愛を必要としている人々に対して、帰依者が謙虚で純粋な気持ちで奉仕とプレーマ(愛)を与えようとしているとき、そして帰依者がすべての創造物を、私(神)の子どもとして、愛する兄弟姉妹として、私(神)が内在する祝福された顕現物として考えるとき、私はサティヤ サイとしての自分の役割を果たすために、そのヨーギ(修行者)を助け、寄り添い、支えるために、降臨します。私は常に、このようなヨーギのそばにいて、彼を導き、彼の人生に私の愛を降り注ぎます。

—*My Baba and I p170* より

プレーマ(愛)で甘くなったセヴァを無私の心で創造物(人々)に捧げる者、すべての人とすべての物の中に私(神)を見る者、常に私を思い出す者は、私に一番近いヨーギです。

—*My Baba and I p170* より

すべての人を愛し、すべての人に奉仕しなさい

この体は、生まれた瞬間から奉仕に従事してきました

この体は、生まれた瞬間から奉仕に従事してきました。あなたもまた、あなたの人生を他の人々への奉仕に費やさなければなりません。これが私のメッセージです。私は説いたことは何でも実践します。私はすべて

の人を愛し、すべての人に奉仕します。そして、あなた方に、同じことをするように強く勧めます。あなた方の限られた感覚では、私の愛を理解することはできません。それはあなた方の間違いであって、私の間違いではありません。今日、人々の間に争いが増えているのは、正しい理解がないまま調停しようとしているからです。正しい理解があって初めて、調停が可能となります。

—1999年11月18日、Sathya Sai Speaks Vol.32 Part2 C12より

思いやりをもってすべてに仕えなさい

すべての宗教において、偉人たちの誕生日が祝われますが、彼らが生きた理想を思い起こしたり、従ったりすることはありません。それは、誕生日を祝われている善き人々を正当に評価しているとはいえません。イエス・キリストは人々に、すべての人を愛しなさい、思いやりをもってすべてに仕えなさい、と教えました。これらの教えを実践することによってのみ、真にキリストの誕生日を祝うことができるのです。すべての行動の中に、内なる神性が反映されるべきです。あなたのハートの中に、真理の座があります。礼拝とは、心を込めて他の人々を愛するという意味です。あなたは愛の中で生き、愛に基づいた無私の奉仕という人生を送るべきです。これこそが、キリストの誕生日を祝う正しい方法です。

—1992年12月25日、Sathya Sai Speaks Vol.25 C39より

純粋で神聖な生活を送りなさい

神への愛は、人が持つことのできる最も素晴らしい宝物であると考えべきです。あなたが神を愛するとき、すべての人々に対する愛を抱くことになるでしょう。なぜなら、すべての人の中に神がいるからです。ですから、すべての人を愛し、すべての人に奉仕しなさい、という言葉に心を留めておきなさい。神に奉仕する最高の方法は、すべての人を愛し、すべての人に奉仕することです。もしあなたが人々の間に違いがあることを受け入れれば、あなたの帰依心は弱まるでしょう。神を礼拝することは、神聖な生活を送ることに付随して行われなければなりません。そうしてこそ、至福を体験することができるのです。

今日、人々はギターや聖書といった神聖な書物を読む習慣を続けています。彼らが純粋で神聖な生活を送らない限り、それは何の意味もありません。

—1994年8月21日、Sathya Sai Speaks Vol.27 C22より

愛を通じて、あなたはどんなことでも達成することができます

今日、人は平安を求めて、寺院や礼拝堂を訪れます。しかし礼拝堂で平安を見つけることはできません。外で平安を見出すことはできません。平安はあなたの内にあります。あなたは平安、真実、そして愛の化身です。ですから、心の内を探求し、愛の道をたどりなさい。そうしてこそあなたは、平安でいられます。愛を通じて、あなたはどんなことでも達成することができます。神は愛です、愛に生きなさい。愛がなければ、あなたは成功することができません。愛は、あなたが自己(真我)を知ることを助けてくれます。愛を体験するために、あなたの視覚を内面に向けなさい。

クリシュナは、「ママイヴァームショー ジーヴァローケー ジーヴァブータッ サナータナハ(人間は私の神性の火花である)」と言いました。どのような人にも仕えなさい。それは神に仕えることと同じです。神を愛する一番の方法は、すべての人を愛し、すべての人に奉仕することです。もし、あなたがそのような人生を送るのであれば、あなたの行動すべてが神を喜ばせるでしょう。

幸福は、満足することの中にあります。不満は、悲嘆に導くでしょう。平安を体験するために、あなたの欲望を抑えておきなさい。

—1998年9月28日、Sathya Sai Speaks Vol.31 C34より

愛に満ちた純粋なハートを持ちなさい

あなたが行っているバジャンや苦行のようなものは、あなたが愛に満ちた純粋なハートを持たない限り、何の役にも立ちません。霊性の道を歩むためにあなたがしなければならないことは、愛に満ちたハートを育むことです。この純粋な愛は神に直結する道です。それは無限の神聖な愛です。

あなたの祈りが叶えられたかどうかによって、神の愛が決まるわけではありません。賢者や聖者たちが、神に帰依しながらも、数々の厳しい試練を経てきたことを覚えておきなさい。彼らはあらゆる困難を恐れることなく、偉大な帰依者として不朽の名声を得ました。神を愛する最高の方法は、すべての人を愛し、すべての人に奉

仕することです。

—1997年4月10日、Sathya Sai Speaks Vol.30 C9より

奉仕はあなたをバクティへと導きます

あなたの人生は長い旅であり、あなたの欲望は手荷物です。「荷物を減らしなさい。そうすれば旅は快適になり、楽しいものとなるでしょう。」ですから、あなたの欲望を減らしなさい。人間として生まれたのは、他の人々に仕えるためであり、ただ食べたり、飲んだり、寝たり、陽気に遊んだりするためではありません。人間の一番の義務は、同胞に奉仕し、彼らを幸せにすることです。あなた自身が社会への奉仕に参加するときのみ、あなたの人生は救われるでしょう。最も高度なサーダナ（霊性修行）は、愛を奉仕へと変容させることです。奉仕は、あなたをバクティへと導くでしょう。

—1999年11月18日、Sathya Sai Speaks Vol.32 Part2 C12より

すべての人の幸福のために祈りなさい

利己心を放棄し、あなたの国が結束するために働きなさい。すべての人の幸福を祈り、理想的な人生を送りなさい。あなたが掲げなくてはならない理想とは何でしょう？ あなたは全力を尽くしてすべての人を助けなくてはなりません。奉仕と愛をあなたの理想としなさい。この瞬間から新しい生き方を始めなくてはなりません。これがあなたへの私の祝福であり、恩寵です。

—2000年1月1日、Sathya Sai Speaks Vol.33 C1より

お金は来ては去っていきませんが、道徳が来ると成長します

いかなる人も嫌ってはなりません。人は皆、兄弟姉妹であり、神は私たちの父であるという精神を培いなさい。愛をもってすべてに仕えなさい。かつてこの国には、多くの裕福な人々がいました、しかし最後に彼らに起こったことは何でしょう？ 彼らは何も持たずにこの世を去らなくてはなりません。この世から去るときには、誰一人として、一握りの塵さえも持って行くことはできません。あなたが肉体を去るときには、人生の中であなたが成した良いことと悪いことだけを持って行くのです。

—2001年7月16日、Sathya Sai Speaks Vol.34 C14より

神は愛と奉仕のみに興味を示します

あなたは奉仕を実践するべきです。実のところ、手があなたに与えられたのは、人類に奉仕するためです。良い仕事をする、あなたは人生に喜びを感じます。神は礼拝やその他のサーダナ（霊性修行）に関心はありません。神は、愛と奉仕にのみ関心があるのです。もしあなたがこれら二つのサーダナの重要性を理解し、それに沿った生き方をするならば、これ以上のサーダナはありません。

—2004年1月1日の御講話より

純粋さのあるところに神性があります

私たちの思いと言葉と行動の間には、調和がなくてはなりません。この三つが一致しているとき、そこには純粋さがあります。純粋さがあるところには神性があります。他の人々から何をされようとも、それはあなたにとって良いことであると考えなさい。どんな環境の中にあっても、あなたは人間性を失わないよう気をつけていなさい。

「すべての人愛し、すべての人に奉仕しなさい」そうして初めて、健康で幸せな人生を送ることができます。あなたは、最初に神に捧げられた良い、サトウィック（純粋）な食べ物を摂らなければなりません。清潔な容器に入れられ、純粋な気持ちで調理されたサトウィックな食べ物は、神に捧げられます。そのようにして神に捧げられた食べ物をプラサーダム（清められた食べ物）として口にすべきです。良い食べ物は健康をもたらし、健康からは良い想いが生まれます。不幸なことに、今日、私たちの想いと言葉と行動は矛盾しています。私たちの言行は不一致です。

—2008年3月7日の御講話より

すべての人を愛しなさい、誰も嫌ってはいけません

すべての人を愛しなさい。しかし、識別心なくすべての人を信じてはなりません。他の人々を完全に信用する人は、破滅に向かいます。あなた自身を信じなさい。自信を育てなさい。神聖な気持ちを育て、世俗的

な感情を捨てなさい。これが人間のダルマ(正義の道)です。あなたに敵意を示す人をも愛しなさい。これが、サイの特質です。私(サイ)に対して敵意を持っている人たちがたくさんいます。多くは私をあざ笑い、非難します。もし彼らが大声で言えば、それは大気へと消えていきます。もし彼らが心の内で言えば、それは彼らへと戻って行きます。何一つ私には届きません。ですから賞賛^のも罵りも、重視すべきではありません。この愛の原理を、あなたの中にしっかりと定着させなさい。

自信を身につけて、人生の浮き沈みと向き合いなさい。私が困難や障害によって思いとどまることは決してありません。あなたの中に何の欠陥もないとき、なぜ恐れる必要があるのですか？ あなたを非難する人たちでさえも愛しなさい。これが「私の生き方が、私のメッセージです」というときに、スワミが求める理想です。もしあなたが、私の理想に従って厳格に生きるなら、あなたはその理想と同じ水準まで向上するでしょう。ですから、良い資質を育み、困窮している人々を助けなさい。

—2002年5月6日、Sathya Sai Speaks Vol.35 C9より

罪を恐れ、神を愛しなさい

すべての帰依者は愛と思いやりを培わねばなりません。犠牲を通じてでなければ、不滅の生命を得ることはできないと言われています。犠牲の資質を持っている人だけが、至福を体験できます。「私」や「私のもの」という利己的な考えを持っている人は、決して幸せにはなれません。「私のもの」や「私の人々」という感覚を育む人は、執着を強めるようになります。視野を広め、「ローカー サマスター スキノー バヴァントゥー」(すべての世界が平安でありますように)と祈りなさい。

「私」と「私のもの」という狭い心の感覚を育む者は、多くの苦しみを味わいます。これは彼らが受けてきた世俗的教育の結果です。今日、金持ちはパーパ ビーティとダイヴァ プリーティ(罪の恐れと神への愛)を失ってしまいました。この二つの資質を培うだけで、人生におけるすべてのものを手に入れることができます。

—2008年7月20日の御講話より

あなたの知識を他者の幸せのために使いなさい

すべての人は、肉体は他者への奉仕のために授けられたということを理解しなければなりません。もしあなたが他者の幸福のために知識を使わないとしたら、終わることのない書物の研究は、いったい何の役に立つのでしょうか？ 他者に喜びを与えることに使わない頭脳や、他者への奉仕のために使わない身体は、まったく無益です。人は、善良で徳のある人物になるよう努力すべきです。人が善い想いで満たされ、善い行いをしたときのみ、人生は意味あるものとなるでしょう。

—1997年1月19日、Sathya Sai Speaks Vol.30 C2より

神だけを思いなさい

今日、世界中のどこにも peace(ピース/平安・平和)を見つけることができません。ただ、pieces(ピース/断片)だけがあらゆる所に見られます。Peace(平安)はここ(スワミのいる所/ブラシャーンティ ニラヤム)にしかありません。その平安を持って帰りなさい。ここは多くの善い帰依者の波動によって神聖化されています。多くの気高い魂がここに住んでいました。あなたの心を彼らの気高い想念で満たしなさい。他の人々が何を言おうと気にしてはいけません。自信を育て、自己犠牲を通じて、自己実現へと歩みなさい。付随する困難は無視しなさい。それは過ぎ行く雲に過ぎません。ただ神のみを思いなさい。これ以上重要なことはありません。神の愛を得るよう心がけなさい。愛は神です。愛の内に生きなさい。すべては神の化身です。愛を育みなさい。真理を堅持しなさい。正義に従いなさい。平安を獲得しなさい。

—1998年2月5日、Sathya Sai Speaks Vol.31 C3より

無私の知性

あなたは内面に向かう視覚を育むべきです。外に向かう視覚は、動物の視覚です。あなたの感覚を清らかにしなさい。純粋で揺るぐことのない、無私の知性を育まなければなりません。そうして初めて、あなたは、すべての人を愛し、すべての人に奉仕することができるようになるでしょう。

—2000年3月5日、Sathya Sai Speaks Vol.33 C6より

すべての人を愛しなさい、なぜなら神はすべての人の中にいるからです

神を探す必要はありません。あなたは本当に神なのです。この真理を理解するよう努力しなさい。それには

単純で易しい道があります。すべての人は神であるという信念を持ちなさい。すべての人を愛し、すべての人に仕えなさい。

神はすべての人に内在するのですから、あなたはすべての人を愛さなければなりません。すべての人は神の具現者です。この世では、すべての人が、与えられた名前と姿によって自分自身を特定しています。しかし、人々は自分の本当の姿と名前が何であるか気がついていません。

—1995年1月14日、Sathya Sai Speaks Vol.28 C2より

他人を傷つけてはいけない

神はあなたの、そしてすべての人の内に存在します。ですから、他者を傷つけることは神を傷つけることと同じです。他者を批判したり、他者の欠点を探したりしてはいけません。両親を敬い、敬愛し、崇めなさい。あなたの人生における真の富は両親です。両親からの祝福が、あなたに健康と富を授けるのです。あなたが両親を愛し、仕えるなら、神自らがあなたのところにやって来ます。

—1998年11月19日、Sathya Sai Speaks Vol.31 C41より

常に願いは叶えられないが、常に親切に話すことはできる

あなたは、自分自身を満足させるために、数々の神の名前や姿があると考えています。しかし、神は本質的に一つです。ラーマであれ、クリシュナであれ、アツラーであれ、イエスであれ、彼らの教えはすべて、人間を解放するためのものです。どの宗教も暴力や人を傷つけることを説いていません。すべての気高い魂は神聖なことを教えてきました。彼らは「すべての人を愛しなさい」と言っています。憎むことは教えていません。神が誰かを殺せ、と言うことは絶対にありません。同じアートマ(魂)がすべての人に内在しているのですから、誰にも他者を殺す権利はありません。神の御名のもとに、人々は凶悪な犯罪を起こしています。あなたは常に願いを叶えてあげることができないかもしれませんが、常に親切に話すことはできます。愛より偉大な神はありません。愛に生きなさい。邪悪な資質を破壊しなさい。

—2001年12月25日、Sathya Sai Speaks Vol.34 C24より

愛はメインスイッチ

あなたは自分が他者に奉仕していると勘違いしています。このような感覚は手放さなければなりません。奉仕とは、単に他人を助けるという意味ではありません。あなたの奉仕の行為は愛の精神で満たされるべきです。愛という肯定的側面がなければ、実際のところ、あなたが行った奉仕はすべて否定的なものになってしまいます。

あなたの心は思いやりで満たされるべきです。あなたの行為のすべてが愛によって満たされているべきです。愛より強いものはありません。

—2003年1月1日の御講話より

どんな人も他人と考えるはいけない

世俗的な執着のすべては、あなたの惑わされた思考の結果です。あなたの想いと感覚が正しい方向に向かっていないとき、あなたは苦しむことになります。世俗的な生活に巻き込まれるのではなく、その代わりに、社会への奉仕に携わるべきです。

一度奉仕の道に足を踏み入れたら、あなたの問題は次第に減っていくでしょう。誰のことも他人と考えるはいけません。すべての人とあなたは一つであるという感覚を培いなさい。すべての人間は一つです。この世界であなたが見ているものは、それが何であろうとも、ただ、一つである実体の反応、反映、反響でしかありません。一度あなたがこの真理を理解すれば、あなたは平安になるでしょう。ですから、何よりもまず第一に、社会への奉仕に携わりなさい。

—2006年11月23日の御講話より

すべては一つ、すべての人は同じです

もし誰かにあなたの名前を聞かれたら、あなたはある名前を口にします。実際には、その名前はあなたの両親から与えられた名前です。不幸なことに、今日の私たちは、神についてさえも、その名前や姿を根拠にした議論に熱中しています。あなたが出会う人が誰であっても、その人たちは神の化身です。本当です。

—2008年1月1日の御講話より

神はすべての命を輝かせている

同じアートマ(真我/魂)がすべての人に内在しています。アートマの原理を考えると、すべては一つです。空には一つの太陽があります。それは全世界に光を与えます。同様に、神は太陽のようにすべての命を照らしています。他者を非難したとき、私たちは暗闇に巻き込まれます。

もし誰かが私たちが傷つけようとするなら、そうさせなさい。その行為は空気に混ざってしまいます。ですから、誰もあなたを傷つけることはできないことをいつも頭に入れておきなさい。神がいつでもあなたを護ってくれるという信念を持ちなさい。多くの人が神の存在を否定します。もし神が存在しないとしたら、あなたはどこから来たのですか？ もしあなたが神を信じていないのなら、あなたのすべての人生はゴミになります。

ですから、愛の化身である皆さんは、真理と愛を育みなさい。あなたが真理と愛の両方を持ったとき、あなたに平安がもたらされます。もしあなたが平安の内に入れば、あなたのすべての人生は幸福になるでしょう。あなたは誰に対しても憎しみを持たないでしょう。あなたはこの人生において、愛と真理と一つになるべきです。あなたに愛があるとき、すべての人を幸せにします。ですから、愛と真理を心の中で大切にし、たとえ夢の中であっても決して忘れてはいけません。

—2008年5月1日の御講話より

義務は神、働くことは礼拝

教育は人の心を愛と思いやりで満たすべきです。すべての人が水を得る同等の権利を持っています。今日、すべての人が権利のために戦っています。しかし、責任はどうなったのですか？

権利のために戦う必要はありません。あなたの責任を果たしなさい。そうすれば権利はついてきます。あなたの義務を果たしなさい。義務は神です。働くことは礼拝です。あなたの権利とは何ですか？ すべての人を幸せにするのがあなたの権利です。何の見返りも期待せず、すべての人に仕え、すべての人を幸せにしなさい。奉仕は神です。静かに優しく話しなさい。あなたは常に受け入れることはできませんが、常に親切に話すことはできます。

—1998年11月22日、Sathya Sai Speaks Vol.31 C43より

あなたの母国に仕えなさい

勉学を終えた後、外国に憧れるのは止めなさい。あなたの母国に仕えなさい。あなたは愛を体験するために生まれてきました。あなたの人生は愛に満ちています。しかし、あなたは愛の原理を理解することができません。この世で愛より偉大なものはありません。愛は神です。神は愛です。ですから愛の中に生きなさい。

—1999年7月26日、Sathya Sai Speaks Vol.32 Part2 C1より

ただ愛さえあれば、何でも成し遂げられる

私は、すべての皆さんがお互いに愛のある生活をするのを望んでいます。ただ愛さえあればあなたは何でも成し遂げられます。愛はすべてです。

人生には愛と憎しみが伴います。今日、どこを見回しても憎しみ、憎しみ、憎しみです。これは良い傾向ではありません。

—2006年12月25日の御講話より

神より多くの愛を与える人はこの世に誰もいない

多くの人は外部の人々に対して大きな愛を示しますが、同じ家に住む母親や父親には同じ愛を示しません。まず両親を愛さなければなりません。しかし、愛を両親や親戚だけに限ってはいけません。私たちにこのエネルギーを与えているのは神のみです。ですから神を愛しなさい。間違いなく神の子であるすべての人を愛しなさい。

神の愛を得るためののみ、私たちはバジャンや奉仕をします。神の愛は私たちに偉大なエネルギーで満たします。このエネルギーを与えるのは神です。ですから、神を愛し、神の子どもたちであるすべての人を愛しなさい。

あなたは困っている人を見つけても、その人に対して親切にせず、歩き去ります。これ以上大きな罪はありません。次の日、あなたが困難に巻き込まれたら、あなたの友人たちもあなたを無視して、あざけるでしょう。ですから、あなたは他の人を愛し、彼らからの愛を受けるべきです。慈善や親切心はダルマ(正しい行い)の

中で重要な位置を占めています。

—2007年1月27日の御講話より

神は誰に対しても憎しみを持たない

すべての人は神の子どもです。神は彼らの父親です。ですから、私たちはすべての人を愛さなければなりません。他の人はあなたを愛さないかもしれませんが、しかし、あなたは、すべての人を愛し、すべての人に奉仕しなければなりません。愛の威力を理解しない限り、人々は私たちと距離を置きます。ひとたび、彼らが愛を理解し、体験すれば、彼らは私たちと一つになります。私は、人の心の中のこのような変容を待っているのです。

—2008年10月9日の御講話より

永遠に続く至福を楽しみなさい

人はこの世で、様々な任務を行い、多くの体験をします。しかし、永遠に続く至福が得られないのであれば、それが何の役に立つのでしょうか？ 富からも、行動からも、教典の学習からも、気高い魂のダルシヤン（見ること）からも、スパルシヤン（触ること）からも、サムバーシヤン（話をする）からも、人は永遠の至福を得ることはできません。心が純粹になったときに初めて、人は神の顕現を目の当たりにして、至福を体験することができます。すべての中に神が宿っているという信念を持ちなさい。他の人を幸福にすることなく、自分だけが幸福になるのは不可能です。

—2002年4月13日、Sathya Sai Speaks Vol.35 C6より

神はどこにでもいる

今世界が必要としているのは奉仕です。どういう仕事をするにしても、私たちは神の仕事をしているのだという感覚をもって行うべきです。この世で神が存在しない所はどこにもありません。神はすべてに浸透しています。ここには神がいて、あそこにはいない、と疑ってはなりません。神はすべての場所にいます。神はあなたの中に、上に、下に、周りにいます。

—2007年8月24日の御講話より

神の恩寵

神は慈愛の化身です。神は、山ほどの恩寵を授けるために、ほんのわずかな善良さや謙虚さを探します。

—1973年4月、Sathya Sai Speaks Vol.12 C16より

かよわい人や貧しい人、病気の人や障害を持った人、嘆いている人や虐げられた人を助けることにより、神の恩寵に値する人になりなさい。

—1975年1月28日、Sathya Sai Speaks Vol.13 C4より

愛、思いやり、謙虚さ、すべての生き物に対する敬意、地球やその他の元素すべてに対する畏敬の念という神聖な特質を培いなさい。そうすればあなたは、神の恩寵を自分の方へ引き寄せ、人生を有益で実り多いものにすることができます。

—1978年11月22日、Sathya Sai Speaks Vol.14 C13より

何百の講義を聴いたり、他の人に講義をしたりするよりも、心からのセヴァという一つの行為を神に捧げる方が、神の恩寵を呼び込むのです。

—1981年11月19日、Sathya Sai Speaks Vol.15 C31より

あなたが愛を求めて神の御名を唱えるとき、神の指図に従って身体を動かすとき、そして、世界が神の顕現であるとして畏敬の念を抱くとき、あなたは神の恩寵を受けるに違いありません。単に神の御名を唱えることだけが必要で、十分であるという間違った考えを抱いてはいけません。加えて、あなたは神聖な活動の一部を担わなければなりません。これから出会うであろう、どのような障害にも気を取られてはいけません。

毎日、最低五分間は神の御名を唱え、最低五分間は助けを求めている人や見捨てられた人に対して何らかの奉仕をすることにあてなさい。あなたの毎日の祈りに、世界の人々の幸福を願う祈りを加えなさい。自分自身の幸福や救済に心を奪われてはなりません。悪意を抱かず、他者を傷つけたりすることのない生活を送りなさい。これを一種の霊性修行であると考え、あなたの人生をより良いものにしなさい。

—1990年2月8日、Sathya Sai Speaks Vol.23 C2より

カルマの法則と無私の奉仕

すべてのカルマ(行動)には結果がある

因果(原因と結果)の法則があります。あなたが好むと好まないとに関わらず、すべてのカルマ(行為)には結果が伴います。良いカルマは良い結果を生みます。悪いカルマは悪い結果を生みます。誕生は前世で行ったカルマの結果です。これは絶望という信仰ではなく、希望の信仰、確実な信仰、活動的で有益で慈悲深い人生へと導く励ましの信仰です。

—1967年10月15日、Sathya Sai Speaks Vol.7 C39より

一般に知られているカルマの意味は、人の宿命であり、運命であり、逃れることのできない「額に書かれた」もので、なんとかして解決しなければならないもの、というものです。そこから逃げることはできません。しかし人々が忘れてるのは、それは他人の手で書かれたものではないということです。それはすべて、あなた自身の手で書かれたものです。そしてそれを書いた手は、それを消すこともできるのです。

—1963年10月21日、Sathya Sai Speaks Vol.3 C29より

神はただ反映、反響、反応するのみ

神は褒美にも罰にも関わりません。神はただ反映、反響、反応するのみです！ 神は不変の、周りから影響されない目撃者です！ あなたがあなた自身の運命を決めているのです。

—Sadhana the Inward Path Quote 68より

あなたは、鉄の檻の運命を押しつけられているのではない

すべてのものの第一の原因は神であると言うことは、ある意味において真実です。しかし、あなたは神によって、逃げることのできない宿命という鉄の檻の中に押し込められたわけではありません。神はあなたにヴィヴェークとヴァイラーギヤ(識別心と欲望を切り捨てる力)を与えました。神に到達するために、あなたはこの二つの力を使わなくてはなりません。あなたは束縛されていますが、まったく能力を奪われているわけではありません。運命やシロリキタム(頭上に書かれたもの)のせいにははいけません。リキタム(書くこと)はあなた自身によって行われたからです。

—1961年11月24日、Sathya Sai Speaks Vol.2 C26より

カルマの結果から逃れる

あなたは、カルマの結果から逃れる方法があるのだろうかと考えるかもしれません。一度神の恩寵の受取人になれば、あなたはカルマパラ(因果応報)の影響を受けなくなります。ですから、あなたは神の恩寵を受けるための努力をすべきです。学者たちはカルマから逃れることは不可能だと言います。しかし、あなたが一度神の恩寵を獲得すれば、カルマの結果を体験しなければならないとしても、痛みを感じることはありません。心を込めた祈りによって、容易に宿命を乗り越えることができます。

あなたが何をにしても、それを神を喜ばせるものとしなさい。「サルヴァ カルマ バガヴァッド プリーツティヤルタム」(すべての行為を神を喜ばせるために行いなさい)。そうすれば、あなたに罪は発生しません。アートマ原理を体験するより容易い道はありません。

—2005年7月21日の御講話より

愛と無私の奉仕

人間として、あなたはただ一つのことを欲し、求め、楽しむべきです。それは、神への愛です。一度神を愛

したなら、あなたは今後決して悪い行動に耽ることはないでしょう。神への愛を今まで一度も感じたことがない人のみが、物質に喜びを求めるのです。もし、人が真実——純粹でいつまでも続く神への愛の本質——を悟るならば、その後は虚偽で一時的な世俗的喜びを決して追い求めないでしょう。

—Sathya Sai Newsletter USA Vol.12 より

愛があるところ、確かに神は存在する

自分は召使いであってリーダーではないと、常に思っていなさい。真の喜びは、召使いであるときに見つかります。リーダーでいるときに喜びはありません。社会に分け入り、貧しい人に仕え、寄る辺なき人を助け、これらの行動は神への奉仕であると考えなさい。これは大きなチャンスです。あなたの心の中に神を置き、奉仕の準備をしなさい。

—Sathya Sai Newsletter USA Vol.12 より

愛は神です、神は愛です。愛があるところには、確実に神がいます。もっと、もっと、人を愛しなさい。彼らをもっと、もっと強く愛しなさい。その愛を奉仕に変容させなさい。奉仕を崇拜へと変容させなさい。これが至高のサーダナ(霊性修行)です。愛の火花を持っていない生き物はいません。しかしあなたは、この愛があなたの真の姿であり、あなたの心に住むプレーマスワルーパ(愛の化身)の反映であると認識しなければなりません。愛のみが奉仕の計画を実現させ、向上させることができます。

—1965年3月26日、Sathya Sai Speaks Vol.5 C17 より

愛は神です、愛に生きなさい

すべての徳の中で、愛が一番重要です。もし愛を育めば、他のすべての価値はついてきます。すべてのサーダナ(霊性修行)の中で第一の地位を占めるのは愛です。愛は人間であることの至高の印です。愛は神です。私たちが墮落するのは、神を忘却した結果です。

—1989年3月23日、Sathya Sai Speaks Vol.22 C6 より

奉仕によって心をコントロールしなさい

平安はあなたの心の中であって、宗教の中にあるものではありません。外部に平安を探しているので、私たちは混乱ばかりを入手します。心の中に平安を育みなさい。このような平安は家族の中で培われるべきです。平安は家族から村に広がるべきです。村から州に広がり、そうして国全体に広がっていくべきです。

すべての人が、一人ひとり平安を育むよう努力しなければなりません。この平安はどこから得れば良いのでしょうか？ それは奉仕からしか得ることができません。

—Advaita Through Seva Vol.3 1987年11月19～27日の御講話より

献身と奉仕で愛を増やしなさい

セヴァに従事しない人の心は悪魔の仕事場です。平安は想いから自由になった状態です。この平安によって愛が増します。奉仕は愛の木を育てます。愛と憎しみという二元的感情が生じる理由は利己心にあります。

—Advaita Through Seva Vol.3 1987年11月19～27日の御講話より

エゴの除去

エゴイズム(自我意識、アハンカーラ)という悪を除去するためには、奉仕が最も有効な道具です。奉仕は、奉仕をする人に、全人類が一つであるという気持ちを植えつけます。皆さんは自分が行為者だという考えを捨てなければなりません。エゴが勢力を持っている限りは、アートマ、すなわち神の意識を悟ることはできません。ですから、まずあなたのエゴを粉々にしなさい。人の困難のすべての根本的原因はエゴです。

—1978年8月28日、Sathya Sai Speaks Vol.13 C22 より

ニシカーマ カルマ（行為の結果を放棄すること）

「無欲」の行為の真の意味

肉体と心と感覚を持った人間は、この世において欲望から自由になることはできません。しかし、人はどうすればアナペークシャ(期待に縛られない)になることができるのでしょうか？ 自分を行為者だと見なして何らかの行為をすれば、その行為が人を縛る足かせとなります。これは神を喜ばすための捧げ物である、と感じながら行われたすべての行為は、束縛をもたらしません。それはアナペークシャ(無欲の行為)となります。人は、人間という道具を通してすべてのことをなし遂げているのは、万物に内在する神の原理であるということに気がつかなければなりません。人が自分を、行為者(カルトルツヴァ)であり、楽しむ者(享受者/ボークトルトツヴァ)であると見なす限り、自分の行為の結果から逃れることはできません。

—1993年1月1日、Sathya Sai Speaks Vol.26 C1より

「バガヴァッドギーター」は、神への捧げ物として行われた行為は、「無欲」の行為になると教えています。人は権力を楽しんだり権利を主張したりするためではなく、義務を果たすために生まれて来ました。人が義務を果たすと、その権利は自ら進んでやってきます。人は、今日、自分の義務を忘れて、権利を主張しています。したがって、第一に来るのは義務の履行です。義務を通じて、人は神を悟ります。

—1993年1月1日、Sathya Sai Speaks Vol.26 C1より

ニシカーマ カルマは愛の原理を促進する

ニシカーマ カルマ(無私の行為)は愛の原理を明らかにし、推進します。奉仕より重要な霊性修行はありません。霊性修行、奉仕の道と、知識の道を別々に考え、これらを区別する傾向がありますが、それは誤っています。この三つは区別できません。これらは一つです。セヴァ(奉仕)は霊的知識です。セヴァは神の恩寵を受ける基本的手段です。献身的な部下にならない限り、立派なリーダーにはなれません。キンカラ(どんな仕事でもするという心構えがある人)にならない限り、あなたはシャンカラ(神)になることはできません。

—1985年11月17日、Sathya Sai Speaks Vol.18 C22より

霊的な成功を収める方法

霊的な成功を収めるのに最も簡単な方法はニシカーマ カルマ、すなわち成果に執着しない行為です。いっさいの注目や成果への執着を期待しない行為は、義務としての行為、献身としての行為、礼拝としての行為から得ることができます。

—1996年5月6日、Sathya Sai Speaks Vol.29 C13より

すべての行為を神に捧げなさい

人はカルマによってがんじがらめになっています。行為が神への捧げ物として行われるとき、それらは神聖化されます。人にとって自然な行為はすべて、霊的求道者によって、カルマ ヨーガへと変貌させられるべきです。カルマとカルマ ヨーガの違いは、明確に理解されなければなりません。エゴと見返りを求めた欲望をもって、利己的になされる行為はカルマ(これは束縛する)です。エゴを伴わず、何の見返りも期待せず、無私の精神で行われる行為はカルマ ヨーガになります。自分がカルマ ヨーギ(行為によって神へと到達しようとしている行者)か、カルマ ブラシタ(間違っただけの行為をする者)か、カルマーディカーリ(カルマをなす資格がある者)かは、各自が自分で見極めることができます。すべての人の人生は行為で満たされています。すべての人の最も重要な目標は無私の行為に従事することです。他者に対して奉仕をすることによって、神を体験することができます。

—1990年11月19日、Sathya Sai Speaks Vol.23 C30より

ニシカーマ カルマとアナーシャクティ ヨーガ

私たちがこの世で活発に仕事をしているにせよ、この世の活動から身を引いているにせよ、考察すべき最も大切な点は、私たちがしている仕事や、していない仕事のことでなく、私たちのハートの奥に隠れている

ヴァーサナー(根深い諸傾向)を、どれほど効果的に引き抜いて取り除いたかということです。実に深く(意識の奥に)食い込んでいるこれらの不純物を取り除くことこそが、すべてのサーダナ(霊性修行)の最大の目的です。このこと、つまり、私たち自身から執着(ラーガ)と憎しみ(ドヴェーシャ)という双子の悪を跡形もなく取り除くことは、すべてのヨーガの目標でもあるのです。

ギーターは、もし私たちのハートの奥にこびりついている諸傾向を根こそぎにすることができさえすれば、結果を心配せずに、自由にどんな行動でも取ることができると教えています。そのときから私たちは、自分が行ういかなる行為(カルマ)にも縛られなくなります。しかしギーターは、霊性の世界には怠慢の入り込む余地がないと、繰り返し警告しています。ギーターが教えるのはアナーシャクティ ヨーガ(無執着のヨーガ)、すなわち結果に対する執着を持たない、無私の行為のヨーガです。そのとき私たちは、自分の行う仕事に関しても、そこから生じる結果に関しても、いっさい個人的な関心を持ちません。それは、素晴らしい仕事をするために自分たちの能力の限界まで完全に集中しながら、私たちの行為のすべてを神への奉仕のために捧げて、常に神を意識している状態に在ることを意味します。

—1987年9月5日、Sathya Sai Speaks Vol.20 C11 より

ニシカーマ カルマとアナーシャクティ ヨーガ

アナーシャクティ ヨーガは、ニシカーマ カルマの実践すら超えて、その先を行きます。ニシカーマ カルマは、私たちのすべての行為が、自分たちの労力による成果を望んだり期待したりすることなく行われる段階です。過去の行動から生まれたヴァーサナー(印象)が霊的な進歩を邪魔している限り、誰もニシカーマ カルマの段階に到達することはできません。人はまず、悪い行動に関係している悪い性質を、良い行動に関係している良い性質と入れ替えて、取り除かなければなりません。次に、無私の奉仕がしっかりと身について、善の行いのみに携わっている人は、ニシカーマ カルマ(欲望のない行為)の段階へと進むことができます。そこから、その人はアナーシャクティ ヨーガの段階へと昇っていくことでしょう。

ギーター(「バガヴァッドギーター」)は、サットカルマ、すなわち善い行為を通じた、悪い傾向を取り除いて、私たちのハートを清めることはできないと宣言しています。しかしギーターには、それ以上のことが説かれています。ギーターは、ハートの真の純粋さは、私たちのすべての行動を神に捧げることによってしか得られないと説いています。たとえば、調理された後に食べる食物は、ただの普通の食物です。私たちはそれを食べることによって良い影響や悪い影響を受けます。ところが、食べる前にこの食物が神に捧げられたなら、それはプラサーダム(神に祝福された食べ物)という、神からの神聖な贈り物となります。それと同じように、私たちが日中に行う行為はすべて、普通のカルマという範疇(はんちゆう)に入ります。しかし、それと同じ行為を、たとえ単純な行為であったにせよ、神への捧げ物にしようという意図をもって行い、その結果を神の喜びのために捧げるとするならば、それはカルマ ヨーガ(無私の行為を通じた神との融合)になると同時に、ヤグニヤという神聖な供儀となります。そうしたカルマ ヨーガを通して初めて、私たちは、自分たちの内にあるすべての悪い傾向を取り除き、ハートを純粋なものにすることができるのです。

—1987年、Sathya Sai Speaks Vol.20 C11 より

神への捧げ物は純粋で神聖でなければならない

神の蓮華の御足に捧げる行動はどのような品質であるべきでしょうか？ 何かを神に捧げる前に、それが純粋で、適切で、神聖であるかを確かめなければなりません。そうであれば、それは神に捧げるにふさわしい物となるでしょう。私たちの行動は、愛と神聖さという芳香に満たされ、善良で純粋でなければなりません。これがギーターにある本当の行動のヨーガです。

—1987年、Sathya Sai Speaks Vol.20 C11 より

社会に奉仕するために人として生まれる

この生は、まさにこの使命——慈愛という十字架にエゴをかけるという使命——を果たすために、あなたによって始められました。同朋たちに何らかの奉仕をする機会が、神からの贈り物としてあなたのもとに來たのです。あなたの奉仕を受け取るのは神なのですから、感謝の心を込めて奉仕しなさい。ジャパム、ディヤーナム(瞑想)あるいはナーマスラナに精を出しなさい。冷淡で無慈悲な人にならないように、あなた自身を神

で満たすのです。

—1971年1月7日、Sathya Sai Speaks Vol.11 C5より

厄介な大変な仕事

人に与えられた人生はとても短いものです。人が生きる世界はとても広く、時間は後にも先にも際限なく広がっています。人は、ここでやらなければならないことを、与えられた時間内に、与えられた場所で、すばやくやり遂げなければなりません。人にはそれほど大変な仕事を与えられているのです。多くの過去世で獲得したすべての功徳を、この人間の生息環境と交換して、人間として生まれてきたのは、それを成し遂げるためです。その仕事とは、人の中に潜む神性を顕現させることに他なりません。これを成就させるために最も容易で快適な方法は、セヴァです。それは献身と帰依の精神で人間に対して行われる奉仕のことです。

—1975年1月28日、Sathya Sai Speaks Vol.13 C4より

私はあなたと共にいます

あなたが何をしようと、どこにしようと、私はいつもあなたの中に、あなたと共にあることを覚えておきなさい。そのことが、うぬぼれや過ちからあなたを守ってくれるでしょう。そのことによって、あなたが奉仕する人々にとって、あなたのセヴァが価値あるものとなるのです。

—1969年6月26日、Sathya Sai Speaks Vol.9 C12より

奉仕を通じてのオートマの一体性

すべての人は神の顕現です。すべての物は神性を明示しています。宇宙にハリ(神)が遍満していること、神の中にすべてが含まれていることに疑いを抱いてはなりません。宇宙には、神が浸透していない原子などありえません。

—1989年11月23日、Sathya Sai Speaks Vol.22 C37より

あなたが自分自身を発見するとき、すべての嘆きが終わり、あなたは至福に到達することでしょう。これが本当の真我の知識です。あなたは、自分が神の炎の火花であることがわかるようになります。すぐに、あなたは他の人々もまったく同じ火花であることに気がつきます。このような(神の)ビジョンという太陽光線の中で、どうやって憎しみや怒り、妬み、強欲が生き延びることができるでしょうか？

—1970年5月21日、Sathya Sai Speaks Vol.10 C10より

あなたの視野を広めなさい

セヴァは、他のいかなる活動よりもはるかに強烈に、基本的な「一^{いち}」であるという感覚を植えつけます。

—1971年7月8日、Sathya Sai Speaks Vol.11 C28より

他のすべての人をあなた自身として見、またすべての人の中にあなた自身を見ること、それがセヴァというサーダナ(霊性修行)の核心です。私(神)を喜ばせる最高の方法は、存在するものすべての中に私(神)を見て、私(神)に仕えるのと同じように彼らに仕えることです。それが私(神)に届く、最高の礼拝の形です。あなたは他の人の苦痛を和らげているではありません。あなたは、その身体の中にその姿で存在する神に、礼拝を捧げているのです。

—1970年7月19日、Sathya Sai Speaks Vol.10 C16より

セヴァを通して意識を清めなさい

行為を通して人は意識の純粋性を獲得します。では、なぜ純粋意識を追い求めるのでしょうか？ 人のハートの内側に、意識の奥深くに、オートマ(神魂)があります。しかし、それが認識されるのは、意識が純化されたときだけです。あなたの想像や推測、判断や偏見、情熱、感情、利己的な欲望が、意識を汚して、くすんだものにしてしまいます。それでは、どうしたら最も深い奥底にあるオートマを意識できるようになるのでしょうか？ 私たちのエゴをなだめるような欲望をいっさい持たずに、他の人々のためになるという考えのみで行われたセヴァを通してのみ、意識を浄化し、オートマを明らかにすることができるのです。

では、あなたは、いったい誰のためにセヴァをするのでしょうか？ あなたは、あなた自身のためにセヴァをしているのです。あなたは、セヴァを通じてどうやってエゴを乗り越えることができるのかと尋ねるかもしれません。愛で満たされることによって、仕事は礼拝へと変わります。その仕事が神へと捧げられたとき、それはプージャー（聖なる礼拝）として神聖なものとなるのです。

—1977年3月6日、Sathya Sai Speaks Vol.13 C29より

愛を^{はぐく}育み、憎しみを手放しなさい

まず、すべての人を神の子と思いなさい。あなたが私（神）に到達したいと思うなら、愛を育み、憎しみ、妬み、怒り、皮肉な考えや偽りを手放しなさい。私はあなたに学者や世捨て人になるべきだとか、ジャパ（神の御名を唱える）やディヤーナ（瞑想）に熟練した苦行者になるべきだと言っているのではありません。「あなたの心はプレーマ（愛）で満たされていますか？」それが私が調べるすべてです。

—1958年7月22日、Sathya Sai Speaks Vol.1 C11より

奉仕の機会—神からの贈り物

どの人も皆、この世という舞台で神の芝居を演じる役者たちです。すべての原子は神のエネルギー、神の力、神の栄光に満たされています。存在するものすべてが、神の至福、神の美しさ、神の美德にあふれています。特別にあなたに与えられた才能や力を使っているのだと言わないようにしなさい。それは神の恩寵、神の慈愛から生まれたものです。

—1971年7月8日、Sathya Sai Speaks Vol.11 C28より

神からの贈り物を、別の神からの贈り物である手の中に置くこと

あなたがお腹を空かせた子どもにミルクをあげ、路上の凍える兄弟に毛布をあげるとき、あなたは神からの贈り物を、もう一つの神の贈り物である手の中に置いているにすぎません！ あなたは神性原理という倉庫の中に、神からの贈り物を置いているのです！ 神が奉仕します。神は、あなたが奉仕したのだと主張するのを許しているのです。

—1969年5月19日、Sathya Sai Speaks Vol.9 C10より

神に感謝を捧げる

あなたは食物という贈り物をアンナ ダーナ（食物という施し）と言います。しかし、誰にも神によって与えられたものを施す権利などありませんし、それを誇りに思うことも、また何かを恵んであげたなどと思う権利すらありません。神が雨を与え、神が苗を育て、神が穀物を実らせたのです。何の権利があっても、あなたはそれを自分の物だと言い、施しを与えるなどと言うのですか？ あなたがしていることはダーナ（施し）ではありません。あなたはただ神に感謝を捧げているにすぎません。あなたは、収穫した穀物を使って調理した食べ物を、ナーラーヤナ（人の姿をした神）たちに捧げることによって、穀物を神聖化しているのです。それをナーラーヤナ セヴァというのです！ その方がより正確です。

—1975年1月28日、Sathya Sai Speaks Vol.13 C4より

愛と思いやりを増進させなさい

ラジャス（激性／熱情、情動、外向的な気質）が優勢な人々が、お金、学問、利口さや知性を手に入れたとき、彼らは憎しみ、野心や欲望を助長させます。タマス（鈍性／怠惰、鈍感、うぬぼれ）が優勢な人々がそれらを手にしたとき、彼らはどん欲、強欲そして妬みを助長させます。サットワ（浄性／平静、調和）が優勢な人々がそれらを手にしたとき、彼らは愛と思いやりを増し、奉仕に励み、人類の一体性と世界平和を促進します。

—1985年11月23日、Sathya Sai Speaks Vol.18 C25より

慈善と思いやり

どんなに小さな慈善の行為であっても、それが純粋なハートからなされたものであれば、神の目から見ると

非常に大きな意義があります。神はいつもあなたの気持に注目しています。

—2000年9月1日、Sathya Sai Speaks Vol.33 C13より

本当の思いやりはハートから生じたものであるべきです

思いやりは、苦しみを和らげるという行動で表現されなければなりません。誰かの過ちが苦しみの原因であったとしても、です。過ちは誰もが犯すものです。私たちが自分の苦痛を取り除こうとするのと同じように、そうした苦しみを弱めようと努めなければなりません。

—1984年7月14日、Sathya Sai Speaks Vol.17 C16より

本当の思いやりはハートから生じたものであるべきです。

—1984年7月14日、Sathya Sai Speaks Vol.17 C16より

満足

この世で最も豊かな人は、満足している人です。最も貧しい人は誰でしょう？ たくさんの欲望を抱えている人が最も貧しい人です。欲望を減らしなさい。すべての責任は心(マインド)にあります。ですから、あなたの心(マインド)を純粋な無私の想いで満たしなさい。そうすれば、あなたはイルミネーションマインド(光に満ちた心)の境地に到達することができます。次第に、イルミネーションマインドを越えて、オーバーマインド(超越的な心)に到達するようになります。ヴェーダンタ哲学的に言うと、これはアマナスカ(心が存在しない)の境地として知られています。一度心(マインド)が退けば、アートマ原理、すなわち超意識(スーパーコンシャスネス)のみが存在することとなります。

—2000年11月20日、Sathya Sai Speaks Vol.33 C19より

犠牲

ティヤガ(犠牲の精神)は献身的な奉仕には欠かせないものです。高慢は、放棄されるべき邪悪な性質の筆頭です。悪い性質を取り除くことが、真の犠牲です。それはまたヨーガ(霊的合一)でもあります。

—1988年11月21日、Sathya Sai Speaks Vol.21 C31より

純粋なマインドとハート

セヴァに必要な資格について検討していくと、うぬぼれ、強欲、妬みや憎しみで汚されていない純粋なハートが最も重要であることに、あなたは気がつくでしょう。そしてまた、活力、美徳、正義の源泉である神への信仰心も重要です。

—A Flower at His Feetより

セヴァをする前に、あなたはハートの純粋性を獲得しなければなりません。あなたは自分の動機、技能、意図、資格を詳細に検討し、自分自身のためにセヴァを通じて何を達成したいのかを理解しなければなりません。

—1978年11月22日、Sathya Sai Speaks Vol.14 C13より

奉仕をする際の純粋な動機

正しい行いをしているように見えるだけでは十分ではありません。あなたの動機や欲求もまた純粋で利他的なものでなければなりません。あなたの動機が純粋なときにだけ、神はその恩寵を与えることでしょう。動機がとても重要なのです。行為の形態はいつでもいいのです。

—1984年5月20日、Sathya Sai Speaks Vol.17 C13より

サティヤ サイ オーガニゼーション

奉仕はサティヤ サイ オーガニゼーションの生命を支える息吹です。あなたは社会に貢献するために生ま

れてきたという真実を忘れないようにしなさい。奉仕をするとき、どんな差別も設けないようにしなさい。あなたの両親、兄弟、友人そして物乞いにですら同じように仕えなさい。神の恩寵は、あなたが謙遜と平等の精神で奉仕を行ったときにのみ、豊かにあふれ出すのです。

奉仕は神の恩寵を得る最も容易な道です。あなたに愛と奉仕の精神があれば、あなたがどこにしようとも、神の恩寵は影のようにあなたにつき従うことでしょう。

—1999年10月16日、Sathya Sai Speaks Vol.32 Part2 C9より

サティヤ サイ オーガニゼーションの特殊性

セヴァ ダルのメンバーは「私のもの」とか「あなたのもの」といった感覚を克服しなければなりません。彼らが奉仕活動に乗り出すとき、それを他の人々に奉仕する特権(特別な恩恵)として考え、神への礼拝の一形態と見なさなければなりません。社会への奉仕を、人生において自己実現をするための手段と見なすべきです。たとえどんな問題が起ころうとも、信念と勇気をもって立ち向かい、質素に、謙遜と献身の精神をもって奉仕活動を遂行しなければなりません。

—1984年11月18日、Sathya Sai Speaks Vol.17 C27より

サイ オーガニゼーションには、差別の入る余地などまったくありません。全員が皆、神の子であると考えべきです。彼らが、この神の同朋であるという感覚で一つに結ばれたとき、彼らはすべての人に対して愛をもって行動することでしょう。狭量で、偏狭な考えはすべて排除して、すべての人に対して愛にあふれた奉仕をすることに専念しなさい。

—1984年11月18日、Sathya Sai Speaks Vol.17 C27より

サティヤ サイ セヴァ オーガニゼーションの独自性は、セヴァを各自の中に存在する神への奉仕の一形態と見なしている点にあります。

—1984年11月18日、Sathya Sai Speaks Vol.17 C27より

最初に必要とされるものは愛と同朋意識

セヴァ(無私の奉仕)をするとき、サイ セヴァダルのメンバーは、その奉仕が貧しい人々だけに限定されたものであると考えてはなりません。奉仕という領域において、富める者と貧しい者という人為的な区別をする必要はまったくありません。重要なのは、それ(奉仕)を必要としている人に奉仕をするということです。サイ セヴァカ(ボランティア)たちに名声や地位は必要ありません。あなたは自分の能力の限り——それ以上でも以下でもなく——奉仕をすべきです。

—1984年11月18日、Sathya Sai Speaks Vol.17 C27より

サティヤ サイ セヴァ オーガニゼーションのメンバーそれぞれがまず持たなければならない資質は、神への揺るぎない信念です。この信念は、神は遍在であるという意識に基づいたものでなければなりません。

—1984年5月20日、Sathya Sai Speaks Vol.17 C13より

金銭に関与してはなりません

今日の霊的(宗教的)な組織、団体は、公然とビジネスに関わっています。サティヤ サイ オーガニゼーションは決してそのような商業的な団体になってはいけません。彼らが携わることのできる唯一の商行為は、ハートからハートへ、愛から愛へのものです。奉仕をする相手に対する自発的な愛の姿勢を培うことが、サイ オーガニゼーションの第一の目標であるべきです。

—1985年11月17日、Sathya Sai Speaks Vol.18 C22より

指導者たちが善良で有能であれば、世界全体がスムーズに回ることでしょ。 (中略) あなた方は至る所で、人の努力のすべてが金銭熱で汚されてしまっているのを目にします。すべてがビジネスです。しかしながら、シュリ サティヤ サイ オーガニゼーションにはそのような問題はあります。

—2006年8月9日の御講話より

セヴァダルと学生全員が、無償の奉仕に携わることを、私は願っています。そうして初めて、彼らはスワミの恩寵を手にすることができるのです。一言だけ注意します。他のことは何を忘れてもかまいませんが、神の御名を唱えることは決して忘れてなりません。

—2006年8月9日の御講話より

ダリドラ ナーラーヤナに仕える

神には、ラクシュミー ナーラーヤナとダリドラ ナーラーヤナという二つの姿があります。たいていの人は、個々の繁栄と幸福を確かなものになりたいと、ラクシュミー ナーラーヤナを崇めます。しかし、ダリドラ ナーラーヤナ(見捨てられた、貧しい者の姿をした神)を崇めることを選ぶ人は、ほとんどいません。サイ オーガニゼーションの会員は、ダリドラ ナーラーヤナへの奉仕のみを考えるべきです。お腹を空かせた人に食べ物を与えると、彼らはすぐに満足します。ダリドラ ナーラーヤナへの奉仕は、決して無駄になりません。それはサーダナの最高の形です。

—1985年1月、Sathya Sai Speaks Vol.18 C2より

貧しい人に食べ物を与えるとき、お金持ちはダリドラ ナーラーヤナに奉仕していると考えます。誰がダリドラ ナーラーヤナなのですか？ 人々は、食べる物が無い人、着る物や身を寄せる所のない人は誰でもダリドラ ナーラーヤナであると考えます。しかし、貧しい人に奉仕するときには、貧しい人々の心の中に住んでいるナーラーヤナ(神)に奉仕しているのだと考えるべきです。

—1990年11月19日、Sathya Sai Speaks Vol.23 C30より

奉仕をするとき、人を見下すような気持ちを持つてはいけません。自分はどんな仕事でも喜んで引き受ける献身的な召使いなのだと思えなさい。このような精神でなされた奉仕活動は、エゴを消滅させることによって、神実現へと導いてくれるのです。

—1990年11月19日、Sathya Sai Speaks Vol.23 C30より

決して物乞いにお金をあげてはいけません

もし今日道端で物乞いたちを見かけたとします。それは、私たちが彼らにお金をあげることによって、彼らを助長してしまったからです。決して物乞いにお金をあげてはいけません。もし彼らが食べ物や衣服に困っているのなら、もちろんそれらをあげることはできます。しかし、物乞いをするという習慣を助長してはいけません。

—2004年10月22日の御講話より

サティヤ、ダルマ、シャーンティ、プレーマ、アヒムサー (真実、正しい行い、平安、愛、非暴力)

社会に奉仕するとき、サティヤ(真実)、ダルマ(正しい行い)、シャーンティ(平安)、プレーマ(愛)という四つの理想を心に抱きなさい。どんなときでも、他の人々について批判や批評をしたり、感想を述べたりしてはいけません。他者を批判することによってさまざまな困難が生じてくるのです。

—1985年1月、Sathya Sai Speaks Vol.18 C2より

日常生活における奉仕

職務があつてとても忙しいので奉仕をする時間がまったくありません、という愚かな言い訳をするのは、単なる弱さです。正しい方法であなたの職務を果たすことそのものが奉仕なのです。自らの職務を適切に果たし、受け取る報酬にふさわしい十分な働きをすることが奉仕なのだと思えるべきです。ビジネスマンが道路を掃除する必要はありません。もし、彼が道徳的なやり方で仕事をすれば、そのこと自体が奉仕なのです。より

多くの利益を求めて人々から搾取しない限り、それは奉仕です。あなたは、いつ、どこでも、機会が与えられたときに社会に貢献し、自分の義務を最大限に果たすだけで、サイを喜ばせることができます。

—Sathya Sai Newsletter USA Vol.13 より

人への奉仕は神への奉仕

すべての人が人生における自分の義務を果たさなければなりません。自分の義務を無視するのは罪です。

—1989年7月18日、Sathya Sai Speaks Vol.22 C23 より

他の人が何を言おうと、何をしようと、あなたの義務を果たしなさい。

—1985年1月、Sathya Sai Speaks Vol.18 C2 より

奉仕を通して人生を変容させなさい

奉仕を通じてあなたの人生を変容させなくてはなりません。奉仕をする中で横柄な態度や利己心にほんの少しの隙間も与えてはなりません。誰に対して行う奉仕であっても、それは神への奉仕であるという感覚を心に抱きなさい。そのときにのみ、人への奉仕がマーダヴァ(神)への奉仕になります。

—1989年3月23日、Sathya Sai Speaks Vol.22 C6 より

私はすべての人の中にいます

あなたは、私に対して奉仕をしたいと心待ちにしています。実を言うと、私に奉仕する者に奉仕することは、私に直接奉仕するのと同じ満足を私に与えます。誰に対してであれ奉仕することは、私に奉仕することです。なぜならすべての中に私がいるからです。あなたが病む人や悲しんでいる人に与える安心感や喜びは、私に届きます。なぜなら、私は彼らの心の中にいて、彼らが助けを求める相手が私であるからです。

—1970年3月4日、Sathya Sai Speaks Vol.10 C6 より

霊性修行の九つの段階

バクティ スートラ(帰依に対する金言)に書かれているように、霊性修行における九つの段階の中で、最終目標に非常に近い位置にあるのは、自己実現へと導く、セヴァをする召使いであるという姿勢、ダースヤムです。それは第八番目の段階です。

—1977年3月6日、Sathya Sai Speaks Vol.13 C29 より

あなたがどのような仕事に携わっていても、個別の人間としてのあなたの存在を放棄して、その仕事の苦勞や問題や、成果や恩恵を神と分かち合いなさい。あなたは、自分の外部のどこかから神を連れて来る必要はありません。神はあなたの内にいます。この真理を、あなた自身が発見して、あなた自身の宝物とし、あなた自身の力としなければなりません。これこそがセヴァダルの重要な目的です。サティヤ サイ オーガニゼーションでセヴァ ダルに高い地位が与えられているのは、そのためです。

—1977年3月6日、Sathya Sai Speaks Vol.13 C29 より

無私

何をさしおいてもまず初めに、あなたが持っているすべての悪い感情を捨て、ハートを愛と無私の気持ちで満たしなさい。愛が浸透したハートは、それ自体が聖なるハートです。私たちがする奉仕は何であれ、無私ので行わなければなりません。そうすれば、私たちは人生の最高の段階に到達するでしょう。行った奉仕は小さなものかもしれませんが、しかし、それが大きなハートで行われれば、大きな成果を生むことができます。

—1970年12月25日、Sathya Sai Speaks Vol.10 C39 より

有名になることを求めてはならない

あなたが勝ち得た名声や賞賛のことを考えてはなりません。そこから人々が得る善について考えなさい。有名になることを求めてはいけません。あなたが助けている人々の顔に輝く喜びを求めなさい。思いやりから来るこれらの行為を宣伝してはいけません。鳴り物入りではなく、ごく自然に行いなさい。宣伝や誇示は、思いやりから生まれた行動の価値を減らしてしまいます。

—*Advaita through Seva Vol.1 1987年11月19 - 24日の御講話より*

奉仕をするときの態度

あなたの奉仕は、それに伴う心の態度も参考にして、判断されます。ですから、どのような仕事を与えられても、熱意と理解と尊敬の念を込めて行いなさい。あなたが私から遠く離れた場所に配置されても、悲しく思っはなりません。私は、私を呼ぶ者、すべてのものの中に私を見る者の一番近くにいるのです。

—1975年11月14日、*Sathya Sai Speaks Vol.13 C18*より

奉仕するときの態度が重要です。その奉仕は小さなものかもしれませんが。しかし、それも神への礼拝の行為です。

—1970年3月6日、*Sathya Sai Speaks Vol.10 C6*より

セーヴァカ(セヴァをする人)は、有頂天になっても、落胆してもいけません。中道を守らなければなりません。ハヌマーンは理想的なセーヴァカです。有能で、謙虚で、静かで、役に立ち、聡明で、熱心で、献身的です。

—1961年7月27日、*Sathya Sai Speaks Vol.2 C14*より

心を広くする

セヴァは人の内にある偉大なものをすべて引き出します。それは心(ハート)を広くし、視野を広めます。それは人に喜びを与えます。それは一体性を促進します。それは「魂」の真理を明らかにします。それは人に巢食うすべての悪を追い出します。それは偉大な霊性修行と見なされなければなりません。

—1990年11月20日、*Sathya Sai Speaks Vol.23 C31*より

今日の世界に平和が欠けている理由は何でしょう？ それは、人々の生活の中で、想いと言葉と行いに調和が見られないからです。

—1990年11月20日、*Sathya Sai Speaks Vol.23 C31*より

変容は個人から始めなければなりません。個人が変容するとき、世界が変わります。この変容は人の心の中で起ります。正しい想いは正しい行動を導きます。そのため経典は、人の束縛と解放の原因は心(マインド)である、と説明しているのです。

—1990年11月20日、*Sathya Sai Speaks Vol.23 C31*より

無執着

無執着の精神で、すべての行為を神に捧げなさい。神の愛は、神への奉仕を捧げることによるのみ確かなものとなります。あなたが捧げた物に対して、神は惜しみなく応えます。

—1990年4月27日、*Sathya Sai Speaks Vol.23 C7*より

教えに従いなさい

サイの帰依者であると自称する人たちはたくさんいます。その中の何人がサイのメッセージに従っているでしょう？ もし、すべての人が自分自身の中に答えを求めるなら、その答えはゼロであることが分かるでしょう。

サイの帰依者であると自称する人はすべて、その人生をサイの理想に捧げるべきです。それが真の帰依であり、本当の苦行です。それが人間であることの証です。それは愛の中に映し出されるでしょう。愛は、真のアーナンダ(至福)を生み出す思いやりの姿で現れます。

—1993年12月25日、Sathya Sai Speaks Vol.26 C37より

利己的でなく、無私であること

真の愛と、人や物に対する執着とは区別されなければなりません。執着は利己心が基盤になっています。愛は無私が基盤になっています。

—1985年12月11日、Sathya Sai Speaks Vol.18 C28より

奉仕する手は祈る唇より偉大である

愛の化身である皆さん！ 奉仕する手は祈る唇よりも偉大であることを忘れてはいけません。量は問題ではありません。奉仕の質が重要なのです。

—1990年4月27日、Sathya Sai Speaks Vol.23 C7より

謙虚さ

仕事が礼拝へと昇華されたとき、失敗や失望による落胆はなくなります。成功がプライドを増進させることはなく、恩寵に対する謙虚さと感謝の念へと導くでしょう。私たちから社会に当然行うべきものとして、職務として行われた仕事は、喜びという褒美をもたらします。それは、社会を通じて神から授けられた知識と技能を、社会そのものへの奉仕として私たちが活用したからです。

—1985年9月7日、Sathya Sai Speaks Vol.18 C19より

忘恩は重罪である

人間は、社会の産物であり、すべてに社会の恩恵を受けています。ですから人は社会から受け取ったものすべてに対して感謝すべきです。感謝は至高の美德です。忘恩は重罪です。

—1990年11月19日、Sathya Sai Speaks Vol.23 C30より

宗教は人の人格を育てる

愛、犠牲、奉仕、正義、これらは宗教の四肢です。宗教は人の中に神聖で荘厳な感覚を引き出し、社会で奉仕させます。それは人の中にある偉大で至福に満ちた善良なものすべてを呼び起こし、人類の一体性を明らかにします。

—1990年12月25日、Sathya Sai Speaks Vol.23 C36より

奉仕は自己実現への道

最後の一息まで、自分自身を奉仕に費やさなければなりません。奉仕を始めたからには、何年か経ったからとか、一定の年齢に達したからと言って、途中で引退してはいけません。このような主人や師匠がいるとき、セーヴァカ(奉仕する人／召使い)が不足することはありません。召使いは神の栄光です。

—1985年11月23日、Sathya Sai Speaks Vol.18 C25より

寺院

真の寺院はあなた自身の身体です。自分自身を清めないなら、寺院を建てるのに何の意味があるでしょうか？

—1984年5月14日、Sathya Sai Speaks Vol.17 C12より

社会に対する奉仕はすべての人の主要な義務

経済的に恵まれない不運な人々を援助するための団体は、神を礼拝するための大聖堂よりずっと役に立ちます。お金の間違った使い方は大きな悪です。財産は良い目的のためだけに使われるべきです。お金は、人を良い所にも悪い所にも導くことができます。

—1985年12月11日、Sathya Sai Speaks Vol.18 C28より

サティヤ サイ オーガニゼーションはあらゆる形態の活動を検討し、それに霊的意義を与えるべきです。

—1985年12月11日、Sathya Sai Speaks Vol.18 C28より

寺院は神を思い出すために役立つ

どうして寺院を建てなければならないのでしょうか？ 理想は、神が住むことができるように、あなたのハートを寺院にすることです。しかし、これはすべての人に可能なことではありません。石でできた寺院は、神の存在を思い出させます。

—1983年4月6日、Sathya Sai Speaks Vol.16 C8より

真の礼拝は、各人の中にある心からの神へのバクティの中にあります。あなたのハートの中にある寺院を清めるには、あなたの人生を奉仕に捧げなければなりません。

—1983年4月6日、Sathya Sai Speaks Vol.16 C8より

本当の奇跡はスワミの無限の愛です。この愛が無数の帰依者たちを啓発し、無私の奉仕に従事させているのです。

—1983年4月6日、Sathya Sai Speaks Vol.16 C8より

アブ ベン アデムの話

罪を償う行為でも聖地を巡る旅によってでもない

聖典を読み通すことによってでもない

人はこの世の海を乗りきれののだろうか

人生を奉仕によってのみ救われることができる

(サンスクリットの詩)

アブ ベン アデムは、同胞に奉仕することによって一生を捧げたため、神の愛を受け取りました。神は愛の化身であるため、すべての人を愛します。しかし神は、すべての者に慈愛を注いだ人に神御自身を与えます。

—2000年8月22日、Sathya Sai Speaks Vol.33 C12より

* アブ・デン・アデム： イスラム教スーフィー派の聖者。本名イブラヒム・ビン・アダム。二代目カリフの子孫にあたる。バルフ国(現在のアフガニスタン北部)のスルターン(君主)であったが、天使の啓示を受けて玉座を捨て、シリアの地で苦行し、神の教えを説いた。AD777年没。11世紀には伝説の聖者として中央アジアに知れ渡った。19世紀にジェイムズ・ヘンリー・リー・ハントの詩の題材となり、西洋諸国に広く知られることとなった。

仕事を礼拝に変容させる

私の人生は愛

一日に最低十分間、沈黙を実践しなさい。そのときにスワミの御教えについて深く考えなさい。この一時的な世界の中に、永遠なるもの(神)が内在することを悟りなさい。

—1996年4月13日、Sathya Sai Speaks Vol.29 C11より

毎日の家事を礼拝に変容させる

日常生活のすべての行為を神への礼拝に変容させることができます。チャパティ(インドのパン)を作るといった毎日の家事も、神への礼拝に変容させることができます。このようにして、日々の職務の中で瞑想を実践することができます。

—1993年4月、Sathya Sai Speaks Vol.26 C13より

無私の奉仕によって神の愛を獲得しなさい

「バガヴァッドギーター」は、サンガ(社会)に対する奉仕は最高のセヴァ(奉仕)であり、最も有益なサーダナ(霊性修行)であると説いています。あなたはエゴを昇華して、自分自身を救済するために、人間社会の中に生まれてきました。ですからそのように、この人間社会を活用しなければなりません。

—1968年1月11日、Sathya Sai Speaks Vol.8 C1より

「バガヴァッドギーター」は、行為の結果を期待しない道は完成への王道である、と宣言しています。それは、行為の結果を望まずに、ただ無執着の態度で自分の義務を実践し、結果は神に委ねることを勧めています。神は、人が行った仕事の性質と照らし合わせて、行為の結果を授けます。

—*Summer Showers in Brindavan 1979 Nishkama Karma* の章より

より早くゴールに到着する

一つ奉仕すること、一歩ずつ悟りのゴールへと近づきます。

—1974年4月1日、*Sathya Sai Speaks Vol.12 C33* より

奉仕を通じてスワミの慈悲と愛を勝ち取りなさい

一度それが現れることが可能になったら、世界中がプラシヤンティ ニラヤムになるでしょう。ですから皆さんは、目の前にある理想たちを日々の生活の中で実践することを決意して、前向きに取り組みなさい。この先は、今手にしているような機会を得られないかもしれません。これほど近くにいられる機会はないでしょう。何千万人もの人々がここへ押し寄せ、集まるようになります。これはすぐ近いうちに起ります。ですから、セヴァを通じてスワミの慈悲と愛を獲得し、あなたの一生を意義深いものにしなさい。

—1982年11月23日、*Sathya Sai Speaks Vol.15 C55* より

出典：“The Sai Ideal” p 157-194

翻訳：サティヤ サイ出版協会